

2020年度 事業報告書

2020年6月1日から2021年5月31日まで

特定非営利活動法人語りつぐ青函連絡船の会

1 事業の成果

研究公開事業は、引き続き資料の収集につとめた。戦前の船影写真についてはほぼ全船を入手した。そのほか、書籍『復刻・台風との闘い』と冊子「台風との闘い」を再版した。「いるか文庫」は、近年、利用者が減少傾向にあったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響でさらに減少した。保存展示事業（摩周丸事業）も、新型コロナの影響で摩周丸も一時休館し、再開後も入館者数が大幅に減少した。セールスポイントであった元連絡船乗組員によるガイドツアーも、ほとんどの期間で休止した。教育啓発事業も、企画展、イベントとも行えなかった。収支は大幅な赤字となり、運営安定のために蓄積していた資産を大幅に取り崩すことになった。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

| 定款の事業名 | 事業名 | 事業内容 | 実施日 | 実施場所 | 従事者の人数 | 受益対象者の範囲及び人数 | 支出額 |
|--------------------------------|--------|---|----------------------|------------------|--------|-------------------|------------|
| 鉄道連絡船に関する資料、産業遺産の収集、調査、研究、公開事業 | 研究公開事業 | 青函連絡船を中心に船と鉄道に関する資料を収集公開する私設図書館（いるか文庫）の運営及び青函連絡船に関する図書の編集出版。 | 随時。いるか文庫は通年（水・木曜日定休） | 函館駅2階いるか文庫ほか | 3人 | 道南住民及び旅行者約10,000人 | 1,557,087 |
| 鉄道連絡船に関する資料、産業遺産の保存、管理、展示事業 | 保存展示事業 | 旧青函連絡船を活用した博物館船（函館市青函連絡船記念館摩周丸）の管理運営。 | 通年 | 函館市青函連絡船記念館摩周丸 | 9人 | 道南住民及び旅行者約25,000人 | 30,192,198 |
| 鉄道連絡船の歴史と文化に関する教育、啓発、情報提供事業 | 教育啓発事業 | 青函連絡船の歴史、技術、文化の学習理解、摩周丸の広報宣伝を目的とした企画展、セミナー、イベント等の実施及び物品の製作頒布。 | 随時 | 函館市青函連絡船記念館摩周丸ほか | 9人 | 日本全国約25,000人 | 5,584,378 |
| | | | | | | 支出合計 | 37,333,662 |

(2) その他の事業

| 定款の事業名 | 事業名 | 事業内容 | 実施日 | 実施場所 | 従事者の人数 | 支出額 | |
|---------------------------------------|--------|-----------------------|-------------|---------------------------|--------|---------|---------|
| 前項（特定非営利活動に係る事業）に関連するものを除く図書、物品等の販売事業 | 物品販売事業 | 鉄道連絡船に関連しない図書、物品等の販売。 | 通年 | 函館駅2階いるか文庫／函館市青函連絡船記念館摩周丸 | 4人 | 379,606 | |
| 飲食店及び喫茶事業 | 喫茶事業 | 飲食物の提供。 | 通年 | 函館市青函連絡船記念館摩周丸 | 1人 | 50,859 | |
| 会員相互の交流を図る事業 | 会員交流事業 | 懇親会、見学会、旅行会等の実施。 | 本年度は実施しなかった | | | 0 | |
| | | | | | | 支出合計 | 430,465 |